

進学事情、今そして昔

関東同窓会会長 上原 昇 (2 組)

関東同窓会会報は1月と6月の年2回発行しているが、6月号では毎回、母校の進学状況を一覧表にして掲載している。今回も2019年度実績(20年3月卒業+浪人)について、進学指導主事の先生から以下のコメント付きでデータをいただいた。

「台風被害、新型コロナウイルス感染予防に加え、センター試験最終年度に伴う超安全志向といった環境下、生徒たちは健闘した」とあった。詳細は5月下旬に届く会報100号をご覧ください。そして、今の進学状況を我々の頃(65期)と比べるとどうなのか。手元にある20年前発行の同窓会員名簿を広げながら眺めてみたのが、以下「大学進学今昔(65期:118期)データ」である。

118期といえば、我々と53年離れているので、ちょうど孫世代といえる。

65期は入学ベース、118期は現役、浪人合わせての合格ベースで基準が違うので単純比較はできないが、傾向は良く分かる。

この50年間で、公立高校にとって難関大学の合格ハードルは年々高くなり、進学先は新設の公立大学や私立大学へシフトしているようだ。

長野大学(上田市下之郷)は1966年に本州大学からスタートして、2017年に公立に移行している。2019年度、合格した県立大学は全国8校を数える。

国立では、東京教育大学が筑波大学になったのは1973年と随分昔のことになるが、2003年には東京商船大学と東京水産大学が統合して東京海洋大学になった。

私立の武蔵工大は、2009年に東京都市大学に変わっている。(首都大学東京を経て名称を元に戻した東京都立大学と似ている)

女子生徒に人気のあった短大も入学者の減少もあり、最近廃止が相次いでいる。

コロナ禍収束後の社会がどうなるのだろうか。少子化が進む中、乱立気味の大学の前途も厳しいと予測されるが、今後、母校の生徒たちが何処へ、どう進むのか関心を持って見守っていきたい。

【写真：古城の門(成澤文和君(4組)撮影)】



項目	65期(入学)	118期(合格)	コメント
卒業生数	472名	322名	最近の卒業生は300名台 過去最多は91期の495名
うち女性卒業生	45名	160名	最近の男女の割合は半々
国公立大学	37校、224名	56校、185名	公立(県立など)が増加
うち旧帝大	6校、45名	5校、11名	
国公立大 (上位10位)	① 信州大 81名 ② 東北大 18名 ③ 新潟大 16名 ④ 北海道大 11名 ⑤ 高崎経済大 7名 ⑥ 東京大 6名 一橋大 6名 千葉大 6名 ⑨ 小樽商大 5名 東外大 5名 金沢大 5名 名古屋大 5名	① 信州大 34名 ② 金沢大 18名 ③ 高崎経済大 12名 ④ 新潟大 10名 ⑤ 埼玉大 8名 千葉大 8名 富山大 8名 ⑧ 東北大 6名 東京学芸大 6名 ⑩ 東京都立大 4名	・我々から以前の世代は、信大 進学者が多く、65期81名は 歴代最多 ・47期は、信大繊維学部に 58名入学
私立大学	45校、215名	107校、617名	私立大の多様化が顕著
私立大 (上位10位)	① 早稲田大 24名 ② 中央大 23名 ③ 明治大 15名 ④ 日本大 12名 ⑤ 法政大 11名 ⑥ 慶応大 10名 ⑦ 青学大 9名 ⑧ 東京理科大 8名 ⑨ 東京経済大 5名 ⑨ 立命館大 5名	① 東洋大 44名 ② 中央大 36名 ③ 日本大 26名 ④ 明治大 23名 ⑤ 法政大 21名 ⑥ 駒沢大 20名 ⑦ 立命館大 18名 ⑧ 専修大 17名 ⑨ 立教大 16名 ⑩ 順天堂大 15名	・118期、大学の合格学部の 重複は補正 (1大学1名でカウント)
合計	82校、439名	延べ163校、802名	

先ごろ、同窓会本部から、今春関東地区に移動してきた118期の卒業生名簿を入手した。
我々の頃と違い、個人情報管理がシビアなので、31校、49名と一部の人の情報である。
因みに我々の頃は、全体の6割が東京を中心に関東地区の学校に進学していた。
関東同窓会として、新加入メンバーを歓迎したい。

(2020年5月17日記)